

今吉標本(III)

豊 遙 秋 (地質部)・奥 山 康 子 (燃料部)・坂 巻 幸 雄 (鉱床部)
Miehiaki BUENO Yasuko OKUYAMA Yukio SAKAMAKI

今吉標本の特徴はすでに述べたように、我国に産する鉱物種および産地について網羅性が高く、バランスのとれた、学術的に極めて価値の高いコレクションである。一般に、個人のコレクションには、鉱物に限らずコレクターの個性が明瞭に表われ、特定の種別やグループ、産地等について標本が集められたり整理されている場合がしばしば見られる。今吉標本では特に沸石類の種別が多く、点数も1,200点余に達し、今吉氏が特に熱心

に、今回は今吉標本の中から10点の沸石標本を紹介する。

沸石(zeolite)は、我国では各種の火山石や、熱水変質岩等に伴ってしばしば美しい自形の結晶として産することでよく知られている。また超塩基性岩や花崗岩類、変成岩等の中にも産し、産状の多い鉱物である。最近は大変帯の研究上重要な変質鉱物として扱われたり、その結晶構造上の特異性から、分子ふるい・イオン交換・吸着等に利用され、資源としても注目されている。



写真1

新潟県糸魚川市野口産 方沸石(Analcime $\text{NaAlSi}_3\text{O}_6 \cdot \text{H}_2\text{O}$ 等軸晶系) (GSJ M 16966) 偏菱二十四面体透明結晶で玄武岩の空隙に魚眼石とともに産する。(×2)

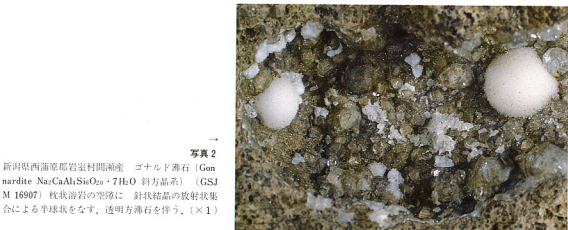


写真2

新潟県西蒲原郡岩室村間瀬産 ゴナルド沸石(Gonardite $\text{Na}_2\text{CaAl}_3\text{Si}_6\text{O}_{20} \cdot 7\text{H}_2\text{O}$ 斜方晶系) (GSJ M 16907) 枕状溶岩の空隙に針状結晶の放射状集合による半球状をなす。透明方沸石を伴う。(×1)



写真3

新潟県西蒲原郡岩室村間瀬産 ソーダ沸石 (Natrolite $\text{Na}_2\text{Al}_2\text{Si}_5\text{O}_{16} \cdot 2\text{H}_2\text{O}$ 斜方晶系) (GSJ M 16906) 枕状溶岩の空隙に針状結晶の集合をなす。中心部の白色緻密な部分はトムソン沸石 (Thomsonite $\text{NaCa}_2\text{Al}_3\text{Si}_5\text{O}_{20} \cdot 6\text{H}_2\text{O}$ 斜方晶系) である。(×1)



↑写真4 岩手県稗貫郡石鳥谷町好地産 輝沸石 (Heulandite $\text{Na, Ca})_2\text{-}_3\text{Al}_3(\text{Al, Si})_2\text{Si}_8\text{O}_{36} \cdot 12\text{H}_2\text{O}$ 単斜晶系) (GSJ M 16965) 変質安山岩の空隙に 淡青色魚眼石 (Apophyllite $\text{KCa}_2\text{Si}_8\text{O}_{20}(\text{F, OH}) \cdot 8\text{H}_2\text{O}$ 正方晶系) 束沸石 モルデン沸石とともに産する。(×1)



↑写真5 静岡県下田市須崎産 モルデン沸石 ($\text{Ca, Na}_2, \text{K}_2$) $\text{Al}_2\text{Si}_{10}\text{O}_{24} \cdot 7\text{H}_2\text{O}$ 斜方晶系) (GSJ M 16759) 安山岩の割目に繊維状結晶の放射状集合をなす。方解石を伴う。(×1)

→
写真6

静岡県田方郡大仁町小室産 東沸石(Stilbite $\text{NaCa}_2\text{Al}_5\text{Si}_3\text{O}_{28} \cdot 14\text{H}_2\text{O}$ 単斜晶系)(GSJ M 16931) 安山岩の空隙に 束(たば)状集合 または球状集合をなす。輝沸石方解石を伴う。(×2)



←
写真7 山梨県大月市下初狩産 ステラー沸石($\text{CaAl}_2\text{Si}_7\text{O}_{28} \cdot 7\text{H}_2\text{O}$ 斜方晶系)(GSJ M 16958) 安山岩の空隙に板状結晶をなす。(×1)



→
写真8

新潟県西蒲原郡岩室村間瀬産 灰十字沸石(Phillipsite (K, Na, Ca) $_{1-2}(\text{Si, Al})_8\text{O}_{26} \cdot 6\text{H}_2\text{O}$ 単斜晶系)(GSJ M 16917) 枕状溶岩の空隙に 淡黄褐色方解石結晶上に白色球状結晶をなす。方沸石 菱沸石結晶を伴う。(×1)





←
写真9

静岡県賀茂郡松崎町雲見産 菱沸石 (Chabazite $\text{CaAl}_2\text{Si}_2\text{O}_7 \cdot 6\text{H}_2\text{O}$ 三方晶系) (GSJ M 16957) 安山岩の空隙に菱面体結晶をなす。石英結晶を伴う。(×1)



→
写真10

静岡県下田市志戸産 湯河原沸石 (Yugawaralite $\text{CaAl}_2\text{Si}_2\text{O}_7 \cdot 4\text{H}_2\text{O}$ 単斜晶系) (GSJ M 16913) 安山岩中に脈状をなすもので空隙に板状の自形結晶をなす。神奈川県湯河原温泉が原産地で 我回では井沢山地に次ぐ三番目の産地である。(×1)

(この連載を終えるにあたって)

この3回の小連載で紹介してきた標本は 今吉氏のコレクション全体から見れば 九牛の一毛に過ぎない。ややまとまった記録としては 写真集「今吉鉱物標本」(豊・奥山・坂巻編 地質調査所100周年記念協賛会刊 非売品 1983年)に153種が掲げられているが その背後にさらに膨大な蓄積があることは言うまでもなからう。これらは順次 展示替えの都度地質標本館で公開される。ぜひ訪館の機会に実物の迫力を感じて頂きたいものである。

標本の仮収納も時を越しつつあった1984年3月8日 今吉隆治氏は静かに永い眠りに就かれた。享年79才であった。

収集の世界ではこのような折に コレクションの行方をめぐって様々な思惑を持つ人々が群れ集い 結果として終生の収集品が無残にも散逸してしまうことが往々にして起こる。今吉氏のコレクションもそれが極めて優れたものであることが事実であっただけに 危険は現実には存在し得た。幸いにもそれを免れることができたのは 先生ご本人のご遺志はもとより それを譲とされたご家族のご協力が絶大だったからにはほかならない。

このことをはじめ 受入に尽力された多くの方々のご好意を活かすためにも 今後もこの今吉標本の適切な利用が促進されることを願ってやまない。